

薬物応答制御学特論

2 単位 隔年 (後期)

Theory of Controlled Medication Response

馬場 一彦 (授業責任者)・非常勤講師, 永山 績夫・非常勤講師 / 薬科学教育部, 岡 俊範・非常勤講師 / 薬科学教育部

【授業目的】薬剤応答性解析は薬の効く人, 効かない人, 副作用の出る人, 出ない人を薬剤投与前に見極め, 患者のための治療を進めようという近年の概念である。その基礎的概念と必要性について講述する。また最近の解析技術の急速な進歩とその技術を用いた制御の例について講述する。

【授業概要】学部の薬物動態学の基礎概念を受講者が保持していることを前提として, FDA の Guidance, 最近の学会, 文献発表例を示し, 講述する。また, 薬剤応答を規定する因子の抽出方法, その因子を用いた制御の例を示し, 講述する。

【履修上の注意】特になし

【授業計画】

1. 授業ガイダンス+薬物応答制御学序論
2. バイオマーカーについて (担当者: 永山 績夫)
3. 薬物の生体内曝露を規定するバイオマーカー I (担当者: 永山 績夫)
4. 薬物の生体内曝露を規定するバイオマーカー II (担当者: 永山 績夫)
5. 薬物の感受性を規定するバイオマーカー (担当者: 永山 績夫)
6. フッ化ピリミジン系抗癌剤について (担当者: 永山 績夫)
7. フッ化ピリミジン系抗癌剤における薬剤応答性解析 (担当者: 永山 績夫)
8. バイオマーカーに関する最近のトピック (担当者: 永山 績夫)
9. 企業のテーラーメイド医療への取り組み (担当者: 岡 俊範)
10. Pharmacogenomics と FDA ガイダンス (担当者: 岡 俊範)
11. バイオインフォマティクスの基礎 (担当者: 岡 俊範)
12. Pharmacogenomics 研究のための新しい解析技術 (担当者: 岡 俊範)
13. 遺伝子発現解析による薬物応答規定因子の探索と応用 (担当者: 岡 俊範)
14. 蛋白発現解析による薬物応答規定因子の探索と応用 (担当者: 岡 俊範)
15. 遺伝子多型解析による薬物応答規定因子の探索と応用 (担当者: 岡 俊範)

【成績評価】出席状況と小テストまたはレポート等により評価する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217094>

【連絡先】

⇒ (オフィスアワー: 特に設定しません。e-mail にていずれかの教員に問い合わせして下さい。その都度, 時間調整と面談場所を設定します。)

【備考】

- ◇平成 23 年度未開講
- ◇随時プリントを配付